

## 国語力を鍛える!

さて皆さん（子どもも大人も）は、自分の両親の顔は思い浮かびますか？思い浮かばない人はいないはずですよ。

では、その思い浮かべた顔を絵にかいてみてください。そうするとほとんどの人が描けないと思います。

絵を描くには、想像する力がまず必要で、次に絵を描く技術が必要です。技術がなければ、頭の中に思い描いたものが正確に描くことはできないのです。

文章も全く同じです。自分の考えたことを相手に正確に伝えるのは難しいのです。正確に伝えるためには技術が必要です。絵と全く同じです。

### 伝える技術とは？

- ① 型を身につける。(最初は型があった方が良いのは何事もそうです)
- ② 可能な限り簡潔にまとめる(これができないと詳細にまとめることはできない)
- ③ 語彙力をつけ、表現に適切な言葉を使う

例えば物語文で「気持ち」の問題が良く聞かれます。これはこういう型で作ることができます。

原因・理由

+

気持ちを表す言葉

+

気持ち

【先生にほめられて                      うれしく思う                      気持ち】というような感じです。

気持ちを表す言葉は「○」か「×」で表現できます。

○なら「うれしい」「楽しい」「幸せ」など

×なら「さみしい」「悲しい」「悔しい」など

この二択はよほど難しい問題でない限り、どんな子どもでもほぼ当てることができます。

つまり、思い描くものはあるのに、技術や型、自信がないので、書くことができないだけなのです。これができればテストで少なくとも△の解答（途中点がもらえる解答）が書けるようになります。

完璧な〇をもらうためには、語彙力、正確に相手に伝えることが必要です。

例えば

- ・先生に褒められてうれしい気持ち
- ・志望校に合格してうれしい気持ち
- ・好きな人と結婚することになり、うれしい気持ち

全部うれしいで表現するには無理が出てくるのです。「うれしい」の上位互換は「感動」、「感動」の上位互換は「感激」です。辞書で調べても「感激」は「激しく感動すること」と出てきます。日本語はこの表現の細かさが難しきであり、繊細な部分です。こういう文化はぜひ守っていきたいですね。

**最後に質問です。「最高のおいしさ」「至高のおいしさ」この違いが分かりますか？**